



8
2021

第23号

令和3年度 京都市地域リハビリテーション推進研修(講座)のご案内

京都市内で障害のある方や高齢者を支援されている方（障害福祉、介護、教育、行政機関関係者等）を対象に、毎年無料で研修を開催しています。

オンラインで
受講できます!!



今年度も、幅広い分野の研修を予定していますので、職員研修やご自身のスキルアップの機会としてぜひご活用ください。

なお、9月以降は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、当面の間、オンラインのみでの開催とし、会場での開催は中止させていただきます。申込方法や今後の予定など詳細については、ホームページ（京都市情報館）をご覧ください。



京都市地域リハ推進研修

検索

◆今後の講座をご紹介します！

日程	開始時間	講座名
9月22日 (水)	10時00分	発達障害・知的障害のある子への性教育について ～「どうやって伝えたいの？」学んで・慣れて・伝える 学童期・思春期編～
9月30日 (木)	13時30分	精神障害の基礎知識 3 ～統合失調症の理解と支援～
	15時20分	精神障害の基礎知識 4 ～精神疾患の薬物療法と生活支援～
10月1日 (金)	13時30分	強度行動障害の理解と支援の実際
10月14日 (木)	13時30分	老人デイサービスセンターにおける取組紹介 「利用者が“はたらく”・地域とつながる・実現までのプロセス」
	15時20分	健康の鍵！オーラルフレイルとその対応

※上記以降の講座については、ホームページをご覧ください。

申込・問合せ先：京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課

電話：(075) 823-1666 FAX：(075) 842-1541

申込専用メールアドレス：rehabili-chiiki@city.kyoto.lg.jp



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。





京都市地域リハビリテーション推進センターの 障害者支援施設



失語症 をご存じですか？

高次脳機能障害のある方の中には、失語症のある方がたくさんおられます。

少し古いデータですが、平成23年度に医療機関を対象に実施された「高次脳機能障害全国実態調査報告」では、89%の医療機関が高次脳機能障害の症状として「失語症」があると回答しており、失語症は高次脳機能障害に合併して高頻度に発症する障害と言えます。

重度の失語症をお持ちの方は、言葉による会話が困難なことから、意思疎通にかなりの時間を要するなど、ご本人、支援者ともに“辛抱強さ”が試される場面に直面することがあります。意思疎通が少しでもスムーズに進むように、双方の負担の軽減を図りたいところです。



失語症 って 何？

失語症のある方は、「話す」「聞く」「読む」「書く」全ての言語能力が低下しています。

例えば、こんなエピソードがあります。

失語症の方が、タクシーの運転手さんに「領収書いりますか？」と聞かれた際、「いらない」と答えたので、運転手さんはお釣りだけをご本人に渡したところ、本人は不満そうにして、遂には怒り出しました。本当の思いは、「いらない」ではなく「いる」だったのです。

運転手さんの「領収書・・・」を何か違うものと間違っ聞き取ったため、「いらない」と言ってしまったのか、それとも「いる」と言ったつもりが違う答えになってしまったのかは定かではありません。

このように、相手の話している内容がよく解っていないか、又は、間違っ言っしまいトラブルになることは、日常生活のあらゆる場面で起こります。

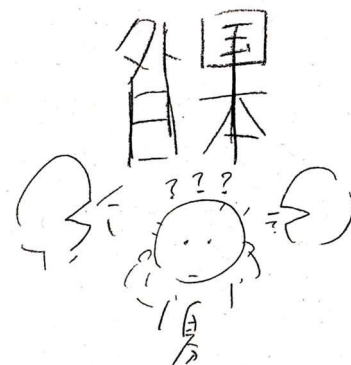
失語症の方との会話のコツは、京都市高次脳機能障害者支援センター主催
「高次脳機能障害入門講座4 失語症について」をご視聴ください。



失語症の人ってどんな気持ち？

右のイラストのように、「聞こえるけど理解できない孤独」を感じておられる方もいます。

会話の際は、失語症の方だけに努力を求めるのではなく、対話者も分かりやすく伝える工夫をしたり、推測したりしながら会話を楽しみたいものです。



失語症の人が描いたイラスト
「失語症の人と話そう」(中央法規)p23より



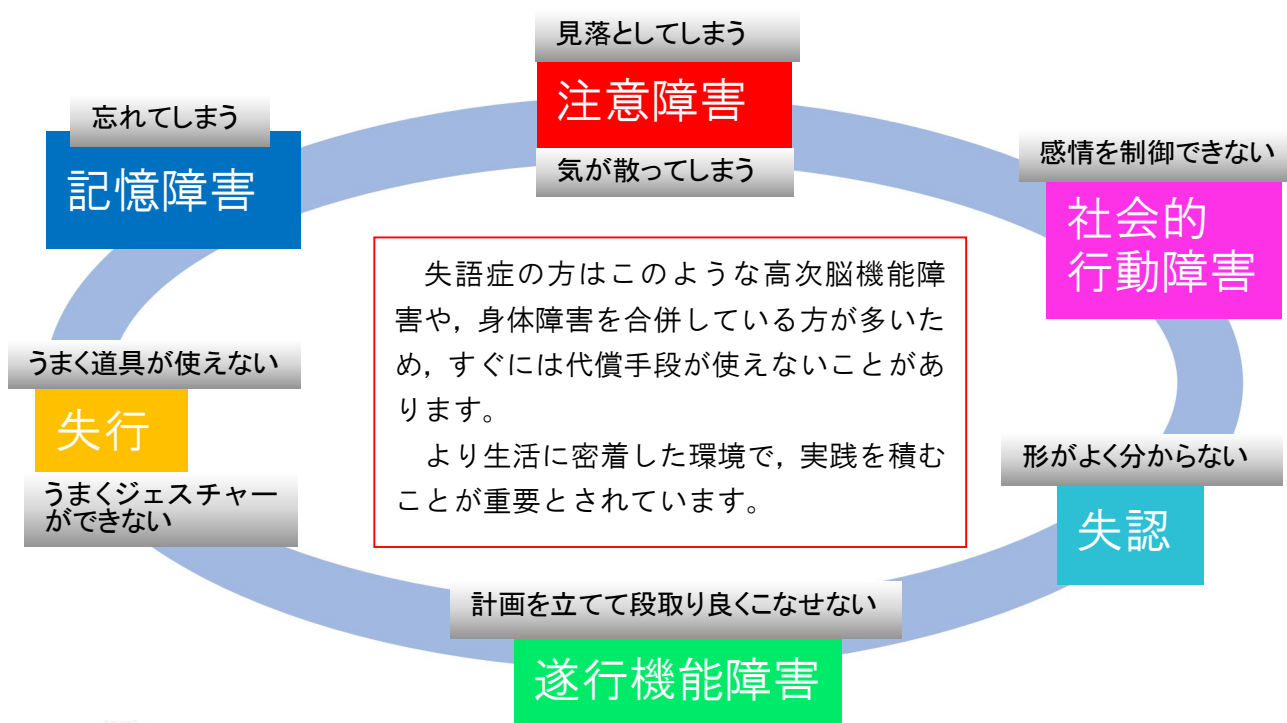
センターの支援施設ではどんな訓練をしているの？

言語聴覚士の個別訓練に加え、より社会に近い環境で上手くやりとりをするスキルの習得を目指します



例えば、言葉の代わりにジェスチャーをしたり絵を描いたり、あらゆる手段を駆使してやりとりをすることや、困った時に他者にサポートを求めることは、自立した生活を送るために重要なスキルです。

当施設では、1対1の場面だけでなく、集団の中でやりとりをする機会が多くあります。その環境で実際に困る経験をして初めてできない事に気付いたり、繰り返し練習してようやく習得できたりする場合があります。



施設では集団でのプログラムや生活場面を通して、職員一丸となって支援しています！
利用ご希望の方は、是非お問い合わせください。



京都市地域リハビリテーション推進センター 障害者支援施設 概要

- ◆利用対象者：18歳以上で高次脳機能障害を有する方
- ◆利用定員：入所又は通所での自立訓練（機能訓練 25 名、生活訓練 15 名。うち施設入所支援 30 名。短期入所も行っています。）
- ◆利用期間：個々の課題や目標に応じて、機能訓練は最長 1 年 6 か月、生活訓練は最長 2 年
- ◆お問合せ：京都市高次脳機能障害者支援センター
TEL075-823-1658 FAX075-842-1545

京都府高次脳機能障害

(京都市域) 支援ネットワーク会議

のお知らせ

高次脳機能障害者の方の支援には、医療、介護、障害福祉、教育、就労、相談支援など、多種多様な関係機関が関わっています。それぞれの職場での取組や課題、工夫等を共有し、共に学び合う場として、ネットワーク会議を企画しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため開催できませんでしたが、今年度はオンラインで実施します。前半の講話は、神奈川リハビリテーション病院の青木重陽先生にご登壇いただく予定です。後半は小グループに分かれて交流会を開催します。奮ってご参加ください！

日時：令和3年10月29日（金）午後1時30分～午後4時30分

対象：高次脳機能障害の支援機関（京都市内）に所属する支援者の方

（医療機関、障害福祉サービス事業所、介護保険サービス事業所、障害者地域生活支援センター、地域包括支援センター、就労支援機関、保健福祉センター、児童福祉センター、教育機関等）

会場：オンライン（Zoom）

申し込み方法：詳細は当センターホームページでお知らせします。



京都市高次脳機能障害者支援センター
ホームページ

<http://koujinoukinou-city-kyoto.jp/>

今年は
オンライン！



★編集後記★

今年は過去最長の梅雨となり、明けてからは猛暑、生活をおびやかす長雨もありました。少し秋めき始めましたが、外出するには厳しい毎日が続いています。当センターではオンラインでの講習を行っていますので、紙面案内のホームページを、ぜひ、ちょこっとのぞいてみてください。

【リハ✕エール】第23号 令和3年8月発行

発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地

電話 075 (823) 1650 (代表)

FAX 075 (842) 1545

Eメール rehabili@city.kyoto.lg.jp

京都市印刷物 第033118号